

 市場価格

ドル建て ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	901.75	2024/2/26
High	901.95	2024/2/26
Low	868.35	2024/3/1
Close	888.15	2024/3/1

円建て 円/グラム


Platinum	Price	Date
Open	4362.00	2024/2/26
High	4364.00	2024/2/26
Low	4203.00	2024/3/1
Close	4286.00	2024/3/1

ドル建て ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	975.50	2024/2/26
High	976.69	2024/2/26
Low	911.84	2024/2/28
Close	959.00	2024/3/1

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	4717.00	2024/2/26
High	4725.00	2024/2/26
Low	4418.00	2024/2/26
Close	4628.00	2024/3/1

 ニュースエクスプレス**コスト高と PGM 価格の下落で今年の南アフリカのプラチナ生産
予測 121.3 トンに減速**

2023年11月に死亡事故があって以来閉鎖となっていたインババラプラチナムの第11鉱山は、近く全面的に再開される。同鉱山はルステンバーグリース鉱区で最も生産高が多く、閉鎖で 6E PGMの生産は 0.9 トン減っていたが、今後6ヶ月でさらに0.9トンの減産を見込んでいる（減産は全体で6E PGM 1.9 トン、うちプラチナは約 1.0 トン）。同鉱山は約6割の生産を行っており、4月にはフル稼働に戻る予定。従って地域全体から見た閉鎖の影響は比較的小さい。

グレンコアのカナダのプラチナ生産も昨年は 25% 減り 0.8 トンとなった。同社のプラチナ生産はニッケル鉱山の副産物で、2023年に北米全体で生産された推定 8.7 トンのプラチナの約 8% を占めるに過ぎない。今年のグレンコアの生産は、2022年のストライキの影響から回復して増産となる予測だが、地域全体の供給に占める割合は大きくはない。

<https://www.pfonline.com/products/electrolyte-for-electroplating-with-pure-platinum>

ゴールドに比べて割安なプラチナ、更なる投資誘うか

プラチナ対ゴールド比価は3月1日金曜日の時点で 0.44となっているが、これほど低くなったことは今まででありなく、コロナ感染症の拡大初期にゴールドが上昇し始めた時期以来だろう。プラチナがゴールドよりも 1 オンスあたり 1133ドル も割安になっていることで新たな投資を呼び込む可能性もある。2022年に17.4 トンだったプラチナ ETF の売りは2023年には0.78トンに減っており、今年に入ってから、ネットベースで買い0.8 トンとかなりじてポジティブだ。ゴールドに比べて小さいプラチナの市場規模を考えると、ETF の買いが強まれば、プラチナ価格を押し上げるきっかけになる可能性がある。

https://www.heraeus.com/media/media/sgm/doc_hgn/precious_metal_update/en_5/Approach_20240226.pdf#modyntid=34g5vbnf#CkqUmDX1P4hvZ8mbZV2G6ay8nald5

Translated by Kazuo OSAWA

トヨタと千代田化工、水素製造システムを共同開発

トヨタ自動車と千代田化工建設は5日、水素製造システムを共同開発すると発表した。両社の技術を組み合わせ、水素製造装置を小型化し効率性を高める。2025年度からトヨタの本社工場（愛知県豊田市）で実証実験を始める計画で、27年度ごろからシステムを販売したい考えだ。

新システムでは水を電気分解して水素を生み出す。出力は約5メガワットで、1時間当たり約100キログラムの水素を製造することができる。設置面積は幅6メートル、奥行き2.5メートルで、一般的な設備に比べ約半分の大きさに抑えた。複数の設備を連結させることで、製造量を大幅に増やすことも可能だという。

トヨタの燃料電池車（FCV）「MIRAI（ミライ）」のFCシステム部品を適用することで、コストの低減を目指す。実証では、製造した水素をトヨタ工場内の設備で利用する予定だ。

<https://www.nikkei.com/article/DGKZQDF054050V00C24A200000/>

経済産業省・脱炭素社会の実現に向け、水素供給拡大へ新法案

政府は脱炭素社会の実現に向け、水素エネルギーの供給拡大を目指す「水素社会推進法案」と、二酸化炭素（CO2）を地下に貯留する技術の導入を促す「CCS事業法案」を閣議決定した。今通常国会に法案を提出し、年内の施行を目指す。

水素は、燃焼してもCO2が出ないため、脱炭素化に資するエネルギーとして期待されているが、液化天然ガス（LNG）や石炭など既存の化石燃料に比べて製造コストが高い。水素法案にはこの差額を埋める支援制度の創設を明記。国内の供給拠点を整備を助成する制度を設けることも定めた。拠点は大都市圏を中心に3カ所、地方に分散した中規模5カ所を目標に整備する方針だ。

水素を巡っては、昨年に国家戦略である水素基本戦略を改定し、2040年の水素供給量を現在の約6倍に当たる年1200万トン程度へ引き上げる目標を設定した。価格差支援には15年間で約3兆円を投じる計画。脱炭素化と経済成長の両立を図る「グリーントランスフォーメーション（GX）」のための新国債「GX経済移行債」で調達する資金を充てる。

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240228-2893991/>

 WPIC直近の活動

EUでは排気ガス等の法規制が日々厳しくなり、水素補給ステーション網の拡大も促進している中、各社も水素補給網への投資に乗り出し、プラチナベースの燃料電池自動車の普及を後押しする。水素関連のプラチナ需要は2040年までには年間のプラチナ需要全体の 4分の1を占めるまでになるとされている。詳細は**プラチナ豆知識—欧州の水素補給**をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/jp/WPIC_60SIP_Hydrogen_refueling_in_Europe_02_21_2024_JA.pdf

プラチナとパラジウムの価格差は縮まり、2018 年未初めてほぼ同水準になった。パラジウムの先物ポジションはショートカバーラリーが起りやすいいパターンになっている。プラチナはファンダメンタルズがパラジウムより良好でありながら、価格が供給不足予測を反映しておらず、過小評価が続くが、今後の価格上昇は期待できる。詳細は**プラチナ展望—2024年2月号**をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/perspectives/jp/WPIC_Platinum_Perspectives_February_2024Palladiumoversoldandplatinum%E2%80%99sattractivefundamentals_JA.pdf

